

あし

ハイキングクラブ



ちんぐるま

第356号

2019年6月13日発行

先月の山行

- ☆ 5月 6日(日) 鷲走ヶ岳
- ☆ 5月19日(日) 母袋烏帽子岳

6月の予定

- ★ 13日(木) 例会
- ☆ 23日(日) 三の峰 4時半カネキ

CL 畑中義和

- ☆ 30日(日) 白木峰 4時半カネキ

CL 伴藤幸枝 予備日7月7日

7月の予定

- ★ 11日(木) 例会
- ☆ 14日(日) ~唐松、五竜

CL 宮本重信

- ☆ 20日(日) 雨天予備

CL

- ☆ 28日(日) 白山

CL

8月8日(木) 納涼会

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

を検索して下さい。

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

〔山行報告〕

2019年5月6日(日曜日)

鷲走ヶ岳 (1097m)



ガイドブックでは道が荒れているとの鴉(とき)ガ谷から登山開始。まもなく私の嫌いな林道歩き。去年もこのコースを登ったとのこと。すぐにその理由が判明。皆山菜取りに夢中になったので。勿論私もその仲間に入ったことは言うまでもありません。そこそこ収穫があった頃頂上に到着。記念撮影後途中にある出作り小屋まで戻り、昼食。今日のメニューは勿論収穫した山菜の天麩羅と蕎麦。タラの芽、コシアブラ、フキノトウ、ウドの天麩羅に大満足。蕎麦は茹で足りずか、何とか流し込む。食事後、もとの所まで戻り登山終了。帰りに白峰の総湯で汗を流し、そこで貰ったサービス券でソフトクリームを食す。知らずに待っててくれた人、ゴメンナサイ。

2019年5月19日(日)

母袋烏帽子岳 1341m 岐阜県郡上市大和町

6時カネキ出発、8時母袋キャンプ場駐車場到着。スキー場を右手に見て、管理棟からキャンプ場やバンガローを通過して舗装道を10分ほど歩くと登山口だ。前日の「スマホ活用安全登山講座」で教わったとおり、YMAPの地図をダウンロードしてきたので、のぼるボタンを押し機内モードに変えてスタートした。

特に難所もなく気軽に、根っこがはびこった樹林帯をわいわいがやがやおしゃべりしながら登りはじめる。歩き始めてすぐ、先頭の小柏さんが、この道でいいのかな?と

登山道から外れているような感じの為、早速皆、YMAPで確認する。講座では、遭難の半数以上は道迷いが原因、スマホだけではなく必ず紙の地図も用意し今どこにいるかを常に把握しておくことが大切、そして迷った時は先に進まず引き返すことが原則と習った。YMAPの地図では、そのまま直進すれば再び林道と合流するようだが一旦引き返し、林道分岐で登山道を登る。

朝、福井市内は強風が吹いていたが、母袋烏帽子岳は新緑の中をさわやかな風が吹き抜け実に気持ちがいい。のろのろヒーヒーの私に経験豊富な今日のCL岩本さんご夫妻がアドバイスをくれる。ストックに頼らずに自分の足で登るようにする。登りはじめはゆっくりのスピードで。段差が大きいところは避けて小股で登れるコースを選ぶ。鼻から息を吸うと肺全体に酸素が巡り苦しくない、等々。早速実践するといつもより楽に登れる。会のメンバーは本当に皆優しく、頼りになりありがたい。

30分ほどでお助け水到着。少し脇道に入り冷たい水で喉を潤す。ここから山頂まで60分の看板。杉からブナやミズナラに変わった樹林帯の中の本道を進む。チゴユリが咲いているがほんとに小さい花で驚く。「白樺の道」の看板があるがダケカンバが1本あるだけで白樺は見当たらない。さらに登ると笹が生い茂り姫タケノコが生えている。お昼の焼きそばに入れるとって採取し、皮をはいで準備してくれた。頂上手前のピークから御嶽山が大きく見える。約1時間半で山頂到着。白山も見える。甘味や果物でコーヒープレイクし、同じ道を下山する。

私はスマホはちょっと苦手であまりうまく使いこなせないが、YMAPのアプリはとても簡単で便利だとわかった。GPS機能で万一の遭難時も頼りになる。何もしなくても、登った道順やスポット毎のタイム、高度や距離が自動で記録されており、写した写真もそのままアップでき、山行記録が簡単につくれる。大いに活用しよう。

キャンプ場の炊事棟を借り昼食にする。手際よく油をひき、肉を炒めている伴藤さんが急に爆笑し始めた。焼きそばの麺を家に忘れたみたいだ。皆もつられて大笑い。おいしいお肉たっぷりの野菜いためと差し入れのビールやおつまみでおなかいっぱいになった。母袋温泉がお休みのため道の駅やすらぎ館で汗を流し、健脚ぞろいの面々は物足りなさを残しながらも、楽しく帰路についた。



大和葛城山 個人山行報告

5月12日



大和葛城山の一目百万本のツツジを見に行く。18日から19日を予定していたのだが、天候が悪いので急遽12日に変更した。情報では3分咲きとのこと。4時に福井を出る。ちょっと早いかなと思ったが、現地7時前に到着。なんとすでに上の駐車場は満車。第2駐車場に停めるが、次から次へと車が入ってくる。すでに大勢の人が歩いている。ロープウェイの乗り場に着く。9時からの運行がすでに動いていた。ロープウェイの乗り場に今日のツツジは5分咲きと書いてある。5分咲きか!3分よりマシだと思った。ロープウェイの横を歩くとイノシシ侵入防止の柵がある。大勢の人が入るので開け放しになっている。水平な道を進む。すぐに北尾根コースと櫛羅の滝コースの分岐に出る。北尾根コースに向かう。いきなりの急登です。ジグザクに登っていく。視界が開けた場所にでた。御所市内と紀伊山地が見渡せる。でも霞んでいる。更に高度を上げると、更に視界が開けた。ここが眺望ポイントでしょう。ロープウェイが見える。その先には多分頂上駅でしょうか建物が見える。しばしの休憩です。伴藤さんからりんごをいただく。今年の冷蔵保管していたりんごです。低温熟成でしょうか、冷たくて甘い。生き返りました。樹林帯を登っていく。自然研究路の分岐に着く。崩落のため通行止になっている。更に登っていくと、階段の多いコースと少ないコースの分岐に出る。階段の多いコースはダイヤモンドトレイル

と名前が付いている。ダイヤモンドと言う位なので何かきらめく物があるのでは思いダイヤモンドトレールに進む。もしかしたらダイヤモンドトレールだけにダイヤモンド取れるかも？違いました、標柱がダイヤモンドの形をしていただけでした。階段を登り、下り、また登る。もう終わりかなと思ったら、また階段だ。終わるとまた階段。疲れました。キャンプ場に着くとそこはもう頂上周辺でした。石畳を歩くと展望デッキがあった。とりあえず展望デッキで眺めをしてみることにした。紀伊山地と市街が一望です。霞んでいるが眺め抜群です。頂上に向かう。全く木が無い。小さな高原のような頂上です。頂上からは初めて大阪市内が見える。隣には金剛山が、反対側は紀伊山地、大台ヶ原まで見える。ここで昼食です。ゆっくり時間を過ごした後、いよいよツツジです。自然ツツジ園に向かう。少しツツジが見えた。少し下ると大勢の人が何かを取り囲んでいる。猿回しをやっていた。面白かったがツツジを見に行く『凄い！』と思わず叫んでしまった。これで5分咲き？満開ならどんな景色なるのでしょうか。益々興味が湧いてきた。下りて下からの景色も見て見ることにした。ツツジのトンネルを抜ける。振り返って見上げると青空に赤いツツジが映えている。感動物です。歩く度に写真を撮りまくる。十分堪能した。一旦上に上がり下山を開始することにした。櫛羅の滝コースで下る。ジグザクに下っていく。道幅が狭くなった場所ではすれ違いができないので渋滞が発生。更に進むと上がって来る登山者の切れ目が無い。道幅も狭いので、尾根筋を下る。さすがに都会の山ですね。福井では考えられないほどの登山者でした。今回は全く初めてでしたので、手探りの山行になりました。福井に着いたのは4時前だったので、風呂も十分入れました。来年の課題にしておきます。



5月26日赤兎山山行



6月1日

白山

ストックよりピッケル春山制動練習を私の反省と提案



6/1白山個人山行、7名参加でした。晴天で最高でした。登りは観光新道、下りは砂防新道としました。登りは最後の黒ボコまでの100mほどの片斜面のやや危険箇所だけで、ほぼ安全なコースでした。砂防新道は黒ボコから、南流が馬場との分岐まで、片斜面にやや危険がありました。これも午後からの下山で雪氷も緩んでましたから大丈夫でした。それでも滑落すると急で止まらなくて怖いなと思いました。アイゼンは安全のために使った人と使わなかった人がいました。アイゼンも転倒するとほぼ役に立たなくてピッケルの方が有効だと思います。今回は私だけがピッケル携行でした。ピッケルだと雪に刺して移動できるので、滑落のスタートを止められます。ストックでは刺せないから駄目です。また、私も含めて、滑落時のピッケル

での制動停止の練習を何年もやっていない。これだと上手く止められるかどうか。また、練習をやっていないから、ピッケルの役割を考えた携行を行わない。雪の斜面の下が安全な急斜面で、何度か、機会を見て制動練習をやってみましょう。雪斜面で滑落してみないと、どう動いて良いか分からない。30年も以前ですが、6月中旬だったか、エコーラインの雪斜面を相棒が転けて腹ばいで滑り出した。止まらなくて、足を使えと叫んで、100m滑った点で止まった。雪に手が差し込んで、凍傷？やけどしてはいたが、その程度で済んだ。もう少し雪が氷っていたらと怖くなった。その際には、ピッケルもアイゼンも持参していないというお粗末さだった。5月より6月と夏に近くなると、雪溶けが再凍結して氷となるためだろうか、固い氷となるので要注意です。

登山計画書の提出 ヘルメット着用

任意ですが、ほとんどの人は 遭難対策事業の一環としての労山山岳事故対策基金制度（「労山基金制度」という ホームページ参照）に入っている。保険みたいなもので、年間1000円一口が普通です。以前は保険だったのですが 外資からの圧力で保険を扱うことができなくなったようで それに反対もしたのですが 結局 この基金という方法になった。この基金には個人で申込みます。伴藤さんに、担当をお願いしています。事故や遭難があれば 遭難救助の費用や 通院は3日～50日、山行中の疾病(高山病、日射病、凍傷など)にも適用される。ただし、会員の登山活動を事前に管理するようになっていて、事前管理には、技術教育、指導、訓練、健康管理、個別の山行管理を含む。個別の山行管理は、所属団体の定めにより山行計画書の提出によって行うとなっている。登山計画書のないものは駄目という建前です。これは事故を事前に抑制しようという趣旨からだと思います。私で思い着くことで、安全上 こうしてはという参考意見を伝えることはあります。本当はLINEでも掲載して数人でチェックするようにすると良いのかも。5/19のスマホ利用の現地学習会で、講演者から、ヤママップ?を利用してはもよいかから 文殊山のハイキングでも ネットで出すようにと言われました。そんな面倒なことは大きな怪我にならないと思っているから私も面倒で出していないのですが 一応言われました。メールやスマフ、LINEで良いから 簡単でも送付頂けると幸甚です。また最近では都道府県によってはメンバー連絡先 住所 年齢 やルート 時刻などの登山届けが条例で義務づけられている。留意してください。私を含めて なかなか定着実行できませんが山によってはヘルメット着用も大事です。自転車にヘルメット、乗用車ではシートベルトなら 登山にはへ

ルメットはリスクからすれば当然にも思いますが私も含めて なかなか実行できません。ヘッドランプや非常食は面倒ではなくて みなさん実行しています。参考にしてください。

「編集後記」

日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、労山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。

登山時報投稿写真係 <mailto:tozanjiho@jwaf.jp>